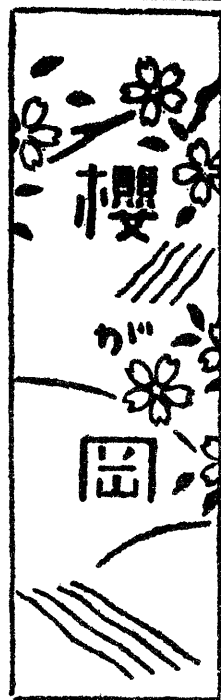


さて、二学期は「行事の学期」と言われるように、運動会や学芸と育ち亀小祭等、子どもたちの心に残る行事がたくさんあります。昨年度の学校だより「桜ヶ岡」にも書かせていただいたのですが、とても大切なことなので今年も書かせていただきます。

行事の場合、多くが集団での活動を伴います。活動を伴うものは、自分だけの考えの押しつけをしていては話が進みませんし、まとまりません。常に相手を意識した関わりが求められます。みんなで良い作品を生み出そうとすればするほど、当然ながら一人一人の考え方の違い等から衝突もおきます。また言い方や伝え方の不十分さや聞き手の意味の取り違えから、感情をあからさまにして相手を非難するということもあるかもしれません。

自分の感情をコントロールすることは、大人

中には家に帰ってからうまくいかなかったことを愚痴にする子どももいます。子どもたちにとって、安心できるおうちの方に自分の思っている口に出して言うことは、心のバランスを保つのに必要なことです。お忙しともは存じますが、保護者の皆様には、是非ともその話に耳を傾けていただきたく思います。ただし一つお願いがあります。子どもと一緒にって愚痴を聞いていただくということは避けていただきたいのです。大人も同じなのですが、立ち位置によって良し悪しの見え方は変わるものなのです。その上で、子どもたちにとって建設的な考え方となるように「じゃあ、どうやって解決していこうと考えているの?」とお声かけいただきたく思います。仮に子どもがうまくいかない



令和6年9月号
編集発行人
京都府亀岡市内丸町15
亀岡市立亀岡小学校
飛田祥
印刷所 ㈱天声社

地域学校～ペットボトルボーリング～

であると感じる案を出してきたとしても、一方的に「その方法はダメ」というのではなく、「もし、その解決方法を出したら、そのあとどんなことが起きるかな?」と対話を進めていた、できたと思います。また、もし解決の糸口が出てこない場合は、おうちの方の「解決の経験談」もしくは「失敗の経験談」を豊かに語っていただきたと思います。大人も親もみんな、いろいろな思いを経験して「今」にたどり着いていることを伝えていただけたらと思います。

いろいろな経験ができる二学期です。成功体験をたくさんさせてあげたいと思っていますが、躓かずに成功するよりも、失敗を乗り越えて成功体験を得た方が、大人になったときの対応力が格段に高まります。

エジソンは、「私は失敗したわけではない。ただ、一万通りの、うまくいかない方法を見つけただけだ」と言っています。失敗は、時間を経て結果的には失敗ではなくなるのです。そのくらい寛容な気持ちで子どもたちを受け入れていきたいと思いますし、そのように保護者の人様にもご理解と協力をいただけるとありがたいです。二学期もどうぞよろしくお願いいたします。

日	曜	学 校 行 事
1	日	給食開始 短五(13時40分下校) アゼゼン(給食開始)演習①②(学年サングラスゲーム)
2	月	短五(13時40分下校) エコラフティンク①④(四年)
3	火	短五(13時40分下校) かののミートークⅢ⑤
4	水	運動会準備開始
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	児童委員会Ⅳ⑥
9	月	
10	火	全校△五校時(14時35分下校)
11	水	フッ化物洗口
12	木	フッ化物洗口
13	金	
14	土	敬老の日といふ(二年生和暦古のみ参組)
15	日	敬老の日
16	月	
17	火	
18	水	フッ化物洗口
19	木	フッ化物洗口
20	金	
21	土	秋分の日
22	日	振替休日
23	月	
24	火	全校△五校時(14時35分下校)
25	水	フッ化物洗口
26	木	フッ化物洗口
27	金	P T△文化鑑賞③④ 第一回色別集会(昼休み)
28	土	
29	日	運動会プロジェクト委員会⑥
30	月	十月の主な行事 2日(火)陸上交通記念会△ロック大会(五・六・年) 3日(水)全校△五校時(14時35分下校) 8日(火)フッ化物洗口 9日(水)運動会予行④⑤ 9日(水)第二回色別集会(昼休み) 10日(木)フッ化物洗口 10日(木)フッ化物洗口 降上交通記念会予備日 11日(金)第一回色別集会(五・六・年)(14時35分下校) 運動会プロジェクト委員会⑥(五・六・年)(14時35分下校) 12日(土)運動会 14日(月)運動会 15日(火)スポーツの日 16日(水)全校四校時(13時10分下校) 17日(木)フッ化物洗口 17日(木)フッ化物洗口 23日(火)全校△五校時(14時35分下校) 全校集会 24日(水)全校四校時(13時10分下校) フッ化物洗口 25日(木)亀崎祭(本校) 28日(日)クラブⅣ⑥ 31日(水)フッ化物洗口

九月行事予定表

一がつきにがんばったこと できるようになったこと

一年

ずこうのえをがんばりました。どうしてかというと、えをじょうずにかけようになったからです。

一年

ひらがなやカタカナがうまくなってうれしかったです。これからがんばっていききたいとおもいました。

一年

ぼくががんばったことは、けいさんです。どうしてかという、けいさんがじょうずになったからです。

一年

ぼくは、ひらがなやカタカナドリルをさいごまでがんばりました。たいいくでは、リレーとドッジボールをがんばりました。二がつきは、かんじをがんばりたいです。



一年

わたしは、あさがおをそだてることをがんばりました。二がつきは、おんがくでがきをえんそうすることをがんばりたいです。

一年

わたしは、てつぼうをがんばりました。ともだちをふやすこともがんばりました。二がつきは、うんどうかいをがんばりたいです。

二年

一がつきをふりかえって

ぼくが、一がつきにがんばったことは、ずこうの絵のぐです。きれいにぬるのをがんばりました。

たのしかったことは、プール学しゅうです。さいごのじゅうじかんにみんなとおよいだのがたのしかったです。

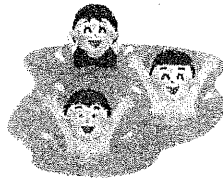
二がつきは、かかりかつどうをわすれずにまい日がんばりたいです。

二年

ぼくが、一がつきにがんばったことは、下校のときに、話を聞いて、あんぜんにかえることをがんばりました。

たのしかったことは、生かつでやさいをそだてたことです。まいにち水やりにいきました。

二がつきにがんばりたいことは体いくです。なぜかというとうんどうかい会があるからです。



二年

わたしが一がつきにがんばったのは、かん字大会です。いろいろなかん字をきれいに書くのをがんばりました。

たのしかったことは、体いくのでつぼうです。いっしょうけんめいれんしゅうしました。

二がつきは、むずかしいかん字をがんばって書きたいです。

二年

わたしが一がつきにがんばったのは、学しゅうでのふりかえりやがんばりを考えられました。

たのしかったことは、いっばいばの花や友だちのキラリ見つけをしたことです。

二学きは、しゅくだいやべんきょうをもっとしゅう中したいです。

二年

わたしが一学きにがんばったのは、さんすうで、ひっさんや図、センチメートル・ミリメートル、リットル・デシリットル・ミリリットルがたのしくできようになるしました。

たのしかったことは、クラスあそびで、みんなのしくうごいたり、しつもんしてこたえたりしてとてもたのしかったです。

二学きは、さんすうでもっとべんきょうをしてもっと知るためにがんば

りたいです。体いくでは、とびばこがこわくてとべないけど、とべるようにがんばりたいです。

二年

わたしが一学きにがんばったのは、ずこうの「くしやくしやぎゅう」で、さくひんを作るのをがんばりました。

たのしかったことは、体いくのおにあそびの三色おにがたのしかったです。

二学きは、がんばりたいことは、音楽です。けんぱんハーモニカをじょうずにひきたいです。

ともだちといっしょにがんばる時間 「キラキラカード」にのこしたよ。

三年

わたしは友だちと体育の時間マットをがんばって運びました。みんなときょう力してマットを運べてよかったです。

三年

みんなといっしょにきゅうしよくをはこんだよ。

三年

ともだちとそうじの時間に、力を合わせてきれいにしたよ。

三年

算数の時間、こまっていたらともだちがヒントをくれてごうかくした。

三年

体育のときともだちに、後転の仕方を教えてもらってできるようになってうれしかった。

三年

ともだちとてつぼうをやってばくはさかあがりができなかったけれど、ともだちはできたからうれしかったです。

四年生では、人権旬間に友達の大切さについて考え、自分が思ったことを標語に表しました。

四年

親友が

いつのまにかは

大親友

四年

友達に

世界一の宝物

ずっとかわる

一生いっしょ

四年

ありがとう

たすけてくれて

うれしいよ

四年

けんかした
ごめんなさいが
できるかな

四年

友達に
遠くにいても
つながるよ

国語「日常を十七音で」

俳句の表現を工夫するために、たとえを使ったり、漢字・平仮名・片仮名など、書き表す文字を変えたりするなどの工夫を考えながら書きました。

五年

梅雨の中

あじさいキラッと

美しい

五年

夏の夕に

かぜの合唱

ひゅーひゅーと

五年

なつやすみ

すずしい風で

鳴るふうりん

五年

雨のじき

みどりがげろげろ

ないている

五年

いっしゅんの
キラキラ光る
宝石だ

五年

うみひかる
オレンジ色が
はんしゃする

一学期をふり返って

六年

私は、一学期をふり返って、自分の成長や変化がたくさんあったと感じています。

まず一つ目が、周りを見て行動することが多くなったことです。五年生の時に上にポジティブアクションをすることが増えました。でも、反省点もあって、一学期の前半からできなかったことです。六年生になり、クラスが変わったことで不安があり、なかなか前向きに自律行動ができなかったからです。でも、今ははじめてきた自信があるので、二学期は最初から意識して実行していきたいと思っています。そして、自分の心を切り替えさせてくれた今西先生やクラスメイトにも感謝の気持ち忘れられないようにしていきたいです。次に二つ目が、自分から声を出してクラスを盛り上げられているということです。私はみんなの学校生活を少しでも盛り上げることができたらいいなと思い、していました。なぜそのよう

なことを思ったかというところ、自分のように初めはクラスになじめなかったり不安をかかえたりしている人がいるかもしれないことを、家族に教えてもらったからです。自分が笑顔でいたら、そのような人も自然に笑顔が増えると思ったし、みんなが笑っているのを見ると自分を必要としてくれる人もいるんだなと思い、すごく嬉しくなりました。

二学期は前半からしっかりと反省点をなくせるようにしていきたいし、成長した部分はもっと成長できるようにがんばりたいです。また、たくさん人の支えがあつて今の自分がいるということをお忘れずに生活していきたいです。

一学期をふり返って

六年

私は一学期をふり返って五つの成長をしました。

一つ目は、挙手の回数です。昨年や六年生の最初のころは、自分の意見に自信がなくて、挙手の回数が一学期ごとに手で数えられるくらいしかありませんでした。でも、一学期の途中からは自分の意見に自信がついてきて、だんだん挙手の回数が多くなりました。



二つ目は、あいさつです。今までより、さらに大きな声で相手に伝わりやすくあいさつすることができました。

三つ目は、何にでもチャレンジすることです。六年生の最初の方は、車いすだから何もできないとあきらめていたけど、小学校生活最後だと考えとやり残したことや新しいことは、とりあえず挑戦してみようと思つて行動したところが成長だと思います。これまでも信じられないことでした。

四つ目は、自分の意見をきちんと伝えることです。今までなら、周りの人の意見に流されてしまっていたけど、今は自分の意見と違うときには自分の意見を伝える・友達がいけないことをしていたら注意をすることができるようになりました。

五つ目は、だれにでも優しく接することです。男女や学年に関わらず、さらに仲良くできました。

私はこれらの成長と自分では気付かなかった成長がありました。これから学校生活は続くので、まだまだ成長していきたいです。

一学期をふり返って

六年

ぼくが六年生になって成長したことは、あいさつです。五年生のときに比べて、あいさつの質がとて良くなったと思います。大きな声であいさつすることは特に意識できました。これは、ぼくだけの成長ではありません。学年全員のあいさつが六年生になってレベルアップしたと思います。このこ

とはとてもうれしいことだと思えます。でも、もっと成長できると思うので学年全員でがんばっていききたいです。

他にも成長したところがあります。それは、雰囲気作りです。これは、ぼくが発表しているときにみんながぼくの方を見てくれたり、終わつた後に拍手をくれたりしたことで気づきました。このことで勇気を出して発表できたり、クラスみんなが良い雰囲気で作表できたりしました。

三つ目は、言われたことをすぐに実行できたことです。できていなかったところも友達や先生に言われたら、その行動を変えようとすぐに行動に移せるようになったところも五年生に比べて成長したと感じます。

最後に、困っている人がいたら助けられるようになったことです。けがをしている友達のかばんの用意を手伝ったり、困っていることにすぐ気がついて声をかけたりすることができました。これもぼくだけじゃなく、クラスみんな、そして他のクラスでもたくさんしていたのいいなと思いました。このように一学期でたくさん成長が自分自身にも学年全体でもあるので、これからもっと増やしていきたいと思っています。

生活単元学習で目指していること

さくら学級担任

生活単元学習とは、さくら学級（特別支援学級）独自の学習で、子ども達の自立に向かう「生きる力」につながる

る生活に必要な事柄を学ぶ学習です。今年度は、昨年度に引き続き「木と友だちになろう！パート2」として、大本花明山植物園や南郷公園に行き、「木」をテーマとした学習を子ども達と一緒に考え、取り組んでいます。

また、校区にあるみずのき美術館の協力を得て、アーティストの方と創作活動にも取り組んでいます。

昨年度は、「地球の落とし物」と題し、実際の「挿し木」を見て絵を描き、次に「土の中に何がいてと楽しい？」「それはどんな生き物？」と考え、そして「木の心ってどんなもの？」と、想像して描いたり作ったりしました。自分の思いを言葉で表現することを大事にし、絵本や図鑑、パソコン等で調べ、イメージをもつてから製作活動に入りました。子ども達は活動をとっても楽しみ、最終的に自分達の作品がみずのき美術館に飾られたのを見て「ぼくの作品が美術館にある。」と目を輝かせて喜びました。そして、友だちや先生、家族に作品を見てもらい、多くの言葉をかけてもらい、褒めてもらい、とても誇らしげな笑顔だったのが印象的でした。「自分の粘土で作った葉っぱの形の心が二つ、美術館に飾ってあって嬉しかったです。友だちの葉もあって、かわいくてかつよかったです。」「自分が描いた絵を見つけて最初に『やったー！』という言葉が出ました。」「美術館にさくら学級の作品が飾られるのが、とても嬉しかったです。」「みんなの絵が集まって、大きな絵になってびっくりしました。」等の

素直な感想が聞かれました。

自分の作品を通して、自分の存在と良さを認めること（自己肯定感）が向上すれば、自らの課題やまわりの環境に働きかける力、つまり自立に向かう「生きる力」が育つと考えます。そのために、子ども達が友だちと協力することや自分達の活動を全校に、家庭に、強いては地域に発信する等の工夫を行っています。子ども達の言動や感想には、「したい」「できた」「嬉しい」そして「楽しい」等、自己肯定感の向上につながったと思われる言葉が多く聞かれました。これは、子ども達が、自分の思いを素直に表現し、友だちと協力することで、自分の思いが実現することを実感したこと、実現していく過程に多くの助けと賞賛があり、それは自分が積極的に挑戦したから感じられたと思っていると感じます。

これからの活動も子ども達の自己肯定感を積み上げながら、優先順位をつけた（判断する）うまくいかない場面を取り入れたり（再挑戦する）何ができていないかを見つめ、助けを求めたり（受援力）するの等、より自立に向かう「生きる力」が育つ生活単元学習を探っていく必要があると考えています。子ども達の思いを大切に、楽しみながら…。

